

ない工学部の一教室で研究しているのであるが、ここでも天体物理学に関連する問題への関心は大きい。こういう事はデンマークでは、非常にまれで、天体問題への関心は、天文学教室に限られている。これは、専門学者に対して、アマチュア天文学者に対して、いえることである。日本の大きい本屋を、ちょっと眺めて見れば、天文学一般や、天体観測のテクニックに至るまで、莫大な数の、理論的、かつ専門的な書物が並んでいるということからも察しがつく。

外国の大学を訪れ、研究をする主要な目的は、その国の科学者と交って、新しい知識を得ることにある。だから日本の諸大学の間に完全なコミュニケーションが出来るという事は、私にとって、まことにありがたいことである。ヨーロッパに比べて、日本は、研究会活動が

非常に盛んで、特に私の心を打ったのは、若手の研究者に、彼らの考えを持ち出させる機会を与え、出席者の間で、いかにスムーズに、意見の交換を行うかである。これは、日本の大学の教授と学生との緊密な関係のひとつの現れとも見られる。実際、教授と学生との関係は、極めて個人的であって、学生が就職したり、他の研究室に移った後も、もとの研究室をなつかしく思うのが普通で、これは、日本独特のものと思われる。

結論を言えば、日本の天文学界に関する私の印象は、戦前のヨーロッパ黄金時代には、ヨーロッパにもあったが、残念ながら、今では完全に消滅しつつある、特殊な学問的雰囲気が、日本になお、生き続けていることである。

1975年2月1日 (ソレンセン和子訳)

掲 示 板

グリニジ王立天文台三百年祭

グリニジ王立天文台は1675年6月22日にCharles二世王の命によって創設され、1948年から1957年の間に現在のSussex州Herstmonceuxに移転した。今年は創設以来300年目に当るので、多くの科学者の参加を得て300年祭が開かれる予定である。

グリニジのNational Maritime博物館との共催で多くの行事が行われる。例えば、Herstmonceuxの王立天文台の特別見学会や、博物館での国際歴史学シンポジウム(1975年7月14日~18日)の開催等である。

天文台の歴史が(3巻の本にまとめられて)今年中に出版される予定である。

詳細は、以下に問い合わせて下さい。

The Public Relations Officer, National Maritime
Museum, Greenwich, LONDON SE10 9NF,
England.

天文月報記事についてのお願ひ

天文月報の記事にはMainの記事と雑報(グラビヤ頁を含む)の二種類があることはすでに御判りの事と思ひます。Mainの記事については、編集部のお願ひに対し、多くの方は快く御引き受け頂いておりありがたく思ひています。

一方雑報については編集部周辺で、どろなわ式にニュースを集めて記事にする場合があります。本誌の性格を考えると、Mainになる解説記事の他に、その時々トピック的な記事があることは大変有意な事と考えます。

本会会員の皆様が論文を読まれてこれは興味のある問題と思われた時、また広く全会員を対象に公知した方がよいと思われる情報があった時など、原稿用紙1~3枚程度にまとめて、編集部宛にお送りいただけたらと思ひます(採否は編集部に御一任下さい)。本誌をよりよくするため会員の皆様の御協力をお願いいたします。

(天文月報編集部)

1975年2月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	0,	0	6	2,	22	11	1,	19	16	0,	0	21	—,	—	26	1,	1
2	—,	—	7	—,	—	12	2,	13	17	0,	0	22	0,	0	27	—,	—
3	3,	10	8	1,	20	13	1,	2	18	0,	0	23	1,	1	28	0,	0
4	—,	—	9	2,	30	14	1,	2	19	0,	0	24	1,	8	*	*	
5	2,	5	10	1,	21	15	1,	4	20	0,	0	25	1,	3	*	*	

(相対数月平均値: 18.6)

昭和50年3月20日	編集兼発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	森 本 雅 樹
印刷発行	印刷所	〒112 東京都文京区水道2-7-5	啓文堂 松本印刷
定価 300円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話武蔵野 31局 (0422-31) 1359	振替口座東京 1 3 5 9 5